

**教育委員会の事務の管理及び
執行状況に関する点検・評価報告書
(令和4年度対象)**

**令和5年9月
新潟市教育委員会**

本報告書は、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民への説明責任を果たしていくために、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教育法」という。）第26条の規定に基づき令和4年度の教育委員会の事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果をまとめたものです。

— 目次 —

I 教育委員会の活動状況について

- 1 教育委員会会議の開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 2 教育委員会会議以外の教育委員の活動状況・・・・・・・・・・ 5
- 3 令和4年度の主な取組と成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

II 新潟市教育ビジョンの施策評価について

- 1 令和4年度進捗状況最終評価施策一覧・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 2 主な施策・事業の評価状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 3 教育ビジョン推進委員からの主な質問・意見・要望と教育委員会の対応
・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

参考資料 新潟市教育ビジョン推進委員会令和4年度進捗状況評価経過
新潟市教育ビジョン推進委員会（第8期）委員名簿
・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

I 教育委員会の活動状況について

1 教育委員会会議の開催状況

○新潟市教育委員会定例会・臨時会

- | | | |
|-------|--------|--|
| 4月定例会 | 議案第1号 | 第35期新潟市社会教育委員の委嘱について |
| | 議案第2号 | 第26期新潟市文化財保護審議会委員の委嘱について |
| | 議案第3号 | 令和5年度使用新潟市立小学校用教科用図書採択に関する基本方針について |
| | 議案第4号 | 令和5年度使用新潟市立中学校用教科用図書採択に関する基本方針について |
| | 議案第5号 | 令和5年度使用新潟市立高志中等教育学校前期課程用教科用図書採択に関する基本方針について |
| | 議案第6号 | 令和5年度使用新潟市立特別支援学校・特別支援学級用教科用図書採択に関する基本方針について |
| | 議案第7号 | 令和5年度使用新潟市立高等学校用教科用図書採択に関する基本方針について |
| | 議案第8号 | 令和5年度使用新潟市立高志中等教育学校後期課程用教科用図書採択に関する基本方針について |
| | 議案第9号 | 令和4年5月議会臨時会の議案について |
| 5月定例会 | 議案第10号 | 令和4年6月議会定例会の議案について |
| 6月定例会 | — | 報告案件のみ |
| 7月定例会 | 議案第11号 | 新潟市教育委員会規則の読点の表記を改める規則について |
| | 議案第12号 | 新潟市教育委員会規程の読点の表記を改める規程について |
| | 議案第13号 | 令和5年度使用新潟市立特別支援学校・特別支援学級用教科用図書の採択について |
| 8月定例会 | 議案第14号 | 令和5年度使用新潟市立高等学校用教科用図書の採択について |
| | 議案第15号 | 令和5年度使用新潟市立高志中等教育学校後期課程用教科用図書の採択について |
| | 議案第16号 | 通学区域の一部変更について |
| | 議案第17号 | 豊栄南小学校と葛塚小学校の統合について |
| | 議案第18号 | 令和4年9月議会定例会の議案について |
| | 議案第19号 | 教育委員会の事務の管理及び執行状況に関する点検・評価（案）について |
| | 議案第20号 | 市立学校園の校長の人事について |
| 9月定例会 | 議案第21号 | 新潟市教育職員の勤務時間、休暇等に関する条例施行規則の一部改正について |

- 10月定例会 議案第22号 新潟市立図書館条例施行規則の一部改正について
議案第23号 新潟市学齢児童生徒の就学に関する規則の一部改正について
議案第24号 職員の人事措置について
- 11月定例会 議案第25号 令和4年12月議会定例会の議案について
- 12月定例会 議案第26号 新潟市立学校管理運営に関する規則等の一部改正について
- 1月定例会 議案第27号 新潟市スポーツ推進計画 第3次「スポ柳都にいがた」プランに
対する意見について
- 2月定例会 議案第28号 令和5年2月議会定例会の議案について
議案第29号 市立学校園長の人事について
- 3月臨時会 議案第30号 教職員の人事措置について
- 3月定例会 議案第31号 新潟市立図書館協議会運営規則の一部改正について
議案第32号 新潟市教育委員会組織規則の一部改正について
議案第33号 新潟市教育委員会公印規則の一部改正について
議案第34号 新潟市学校給食センター条例施行規則の一部改正について
議案第35号 新潟市個人情報の保護に関する法律施行条例施行規則の
制定について
議案第36号 新潟市死者情報の開示に関する条例施行規則の制定について
議案第37号 新潟市教育委員会情報通信技術の活用に関する規程の
一部改正について
議案第38号 教育財産の用途廃止について
議案第39号 事務局及び機関の長の人事について

○教育委員会会議の公開等に関すること

- ・会議について 原則公開（人事案件等非公開の場合あり）
- ・開催案内について ホームページ・市報にいがた等に掲載
- ・会議案件について ホームページで案件名を事前に公開
- ・会議録について 会議終了後、会議速報をホームページに掲載
会議録作成後、速やかに、ホームページに掲載

- ・地教行法等に基づき、新潟市では教育委員会定例会を毎月開催するほか、必要に応じて臨時会を開催しており、令和4年度は13回の会議（定例会12回、臨時会1回）を開催しました。（付議事件39件、報告案件42件）
- ・重要な案件については、教育委員会定例会の付議事件とする前に協議会の場において事前協議を行い、十分な検討を重ねています。（協議会案件3件）

2 教育委員会会議以外の教育委員の活動状況

○意見交換会・懇談会

令和 4年12月～令和 5年 3月 区教育ミーティング
令和 5年 3月 総合教育会議

○学校視察

令和 4年 7月～令和 5年 1月 地域連携事業（小学校6校、中学校2校）
令和 4年12月 特別支援学校視察（東、西）

3 令和4年度の主な取組と成果

新潟市教育ビジョン第4期実施計画は、令和2年度から令和6年度までの5か年を期間とし、「これからの社会をたくましく生き抜く力の育成」を中心的な考え方のテーマに、12の基本施策と34の施策、更に5つの視点からなる重点施策を位置付けています。

計画3年目となる令和4年度は、指標目標を上回って達成した「評価4」と、概ね達成した「評価3」は合計25施策で、全体としては前年度を上回る80.6%となりました。主な要因としては、令和4年度は新型コロナウイルス感染症への対応策により、実施可能な事業が増え、感染拡大の前に計画した想定のもと施策を推進したことなどがあげられます。

また、重点施策においては、全16施策のうち「評価4」と「評価3」となった施策は12施策で令和3年度と同程度の75.0%となりました。

令和4年度の主な取組と成果は、次のとおりです。

① 新型コロナウイルス感染症への対応

令和4年度も、国の予算を最大限活用しながら、学校園における適切な感染症対策と学校活動の両立を図ってきました。

引き続き3密の回避やマスクの適切な着用、こまめな換気、手洗いなど基本的な感染症対策の徹底に加え、日々の健康観察のほか、普段と異なる症状がある場合等には登校園を控えるなど、保護者の理解と協力を得て、感染リスクの低減に努めました。感染状況によっては、密集する運動や部活動での感染リスクの高い活動の一部制限や学級閉鎖等の措置を機動的に行いながら、学校園内での大きな感染拡大を防止し、児童生徒等の学びの保障につなげました。

安心安全な学習環境を確保するため、トイレ手洗いの自動水栓化や保健衛生備品の整備を行うとともに、各学級に1台の配信専用端末を配備し、家庭でのオンライン学習の環境を整えました。教員業務支援員を配置していない小中学校には、引き続き、校内の消毒作業や授業準備を行うスクール・サポート・スタッフを配置し、教職員の負担軽減を図り、子どもたちに向き合う時間を確保しました。

あわせて、感染症への感染やマスク着脱に関して、差別や偏見は許されないことを繰り返し指導し、啓発に取り組みました。

今後も、平時と感染流行時でのそれぞれの状況に応じて適切な感染症対策を講じながら教育活動を継続し、児童生徒等が安心して充実した学校生活を送ることができるよう取組を進めていきます。

② G I G Aスクール構想の推進

令和4年7月からG I G Aスクール運営支援センターを本格始動させ、学校支援をワンストップで行うことで、学校現場の負担を軽減するとともに、子どもたちが授業や家庭学習でデジタル教科書などの教材にアクセスするため「学習eポータル」を整備しました。また、各学校にモバイルW i - F iを配備し、帯域が不安定な学校のネットワーク回線を複線化するなどの対応を行いました。

さらに、情報通信技術支援員（I C T支援員）を引き続き配置し、学校訪問時における教職員へのミニ研修の実施や電話によるサポートデスク及びG I G Aスクールの専用ホームページ「G I G A S U P P O R T W E B」を運営するなど、教職員と児童生徒への支援に努めました。

このような環境整備や支援によりタブレット端末の活用が進んだことで、令和4年度の全国学力学習状況調査では、小学校・中学校ともに、授業での活用率が政令市トップの水準となっており、引き続き支援体制の整備を推進します。

一方で、タブレット端末を整備して2年以上経過することから、効果の検証や新たな制度設計について検討を進めていきます。

③ 部活動の地域移行

令和4年度は、地域人材を活かした運営母体の組織と、管理運営の在り方を明確にするため、4つの団体によるモデル事業を行いました。具体的には、地域の指導者、市・区陸上協会、部活動保護者会が運営主体となり、指導者としては地域の指導者、陸上競技協会、兼業願が受理された教職員、部活動O Bといった方々が生徒への専門的な指導に当たってきました。本事業に参加した生徒からは、「(とても)満足している」との回答が多く寄せられました。その理由としては、「技能や体力が向上したから」、「専門的なことを学べたから」等の肯定的な回答が多く挙げられました。

保護者や指導者からも、「(とても)満足している」との回答が多く寄せられ、その理由として、「生徒の記録の向上」「専門的知識の習得」「指導者との良好な関わり」等が挙げられました。

課題としては、本市が推進する地域移行の目指す姿をより明確にし、関係機関と共有化を図ること、地域移行の取組が持続可能となるための体制整備や連携・支援の在り方を検討していくこと等があげられます。

令和5年度は、モデル事業の団体数を増やすとともに、「推進協議会」を立ち上げ、受け皿となる団体の確保や新たな枠組みの構築などについて意見をいただくなど、中学生のための地域運動活動や文化活動を発展させる方法を検討し、地域移行に係る取組を推進していきます。

④ 基礎・基本を身に付ける教育の推進

本市の半数の学校園で指導主事計画訪問を実施し、授業参観と協議会、全体指導の中で、目指す資質能力の明確化やICTを効果的に活用した指導の在り方について伝え、協議しました。また、特に優れた授業実践については広報紙で取り上げ、周知しました。各校では、タブレット端末を用いた主体的・対話的で深い学びへの研修や実践が多く見られました。

総合教育センターが行う研修においても、タブレット端末に関する講座を充実させ、教職員のスキルアップを図ることで授業の質の向上につながりました。

また、個に応じた学習を進めるために、学習ボランティアの派遣やアフタースクール学習支援事業により学習環境の整備を図るなど、児童生徒一人一人の主体的に学ぶ意欲・態度の育成や、学力実態の的確な把握ときめ細かな指導に努めました。その結果、「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」という問いに対し、小6・中3ともに肯定的意見が8割を超えています。

さらに子どもたちが主体的に学びを進めていけるよう、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」について、教職員への理解を深め、授業の質の向上を図るため、各種研修会や広報等で好事例を発信していきます。

⑤ 体力づくりの推進

市内の小中学校教員を対象に、学習指導要領に基づいて、体育授業で身に付けさせたい資質・能力を明確にした授業づくりをしたり、運動が苦手な児童生徒も運動の楽しさを実感し、意欲を持てるように指導を工夫することについて研修を行いました。これらの取組により、体を動かした遊びや運動・スポーツを行うことについて肯定的な回答をした児童生徒の割合は86.2%で、前年度から0.7ポイント上昇し、例年同様、高い水準を維持することができました。

全国的には、本市の小中学生は体力上位となっていますが、コロナ禍の影響等により、年々、体力テストの結果は下降傾向にあるため、学校独自の取組を計画したり、取組の内容を各校で共有するなど、より一層、運動への意欲や体力の向上につながる取組を進めていきます。

⑥ 一人一人の成長を促す生徒指導の推進

引き続き学校全体の支持的風土の醸成を図り、児童生徒一人一人の自己肯定感を高める教育活動の実践・啓発に努めました。また、自己指導能力の育成による諸課題の未然防止に向けた取組を進めました。

本市では、いじめの認知件数は政令市の中でも多い状況ですが、「いじめ防止市民フォーラム」の実施のほか、「いじめ初期対応ガイドブック（改訂版）」の活用の徹底や、「いじめ状況調査（年間3回実施）」を行う等、きめ細かに対応したことにより、いじめの重大事態は極めて少ない状況にあります。また、子どもの発達段階に応じた未然防止の取組を推進したほか、いじめ発生件数自体の減少を目指して、「いじめに関する知識・理解の学習」、「心の教育いじめの道徳科の授業」をパッケージ化した「いじめ未然防止に向けた教育プログラム」を作成しました。

増加傾向にある不登校児童生徒への対応として、「不登校初期対応ガイドブック（改訂版）」や「学校復帰に向けた支援シート（6つの視点）」を活用した支援により不登校の解消に努めました。今後は、未然防止や不登校の子どもたちの学びの保障についての取組を推進していく必要があります。

「落ち着かない学級」への支援では、早期段階から学校と連携して課題解決が進められるよう、教育支援センターとも連携した支援体制を再構築しました。

⑦ 特別支援教育の推進

高まり続ける特別支援教育への社会的ニーズと課題に的確に対応し、政策企画立案能力を強化するため、「特別支援教育課」を設置し、就学前から社会参加まで切れ目ない支援を受けられる体制の在り方の調査・研究などを行いました。

個別の教育支援計画等については、作成支援システムを14校園にモデル導入し、就学や進級・進学などに有効に活用される仕組みづくりに向けて効果検証を行っています。一方で、通常の学級における個別の教育支援計画の作成率が高まっていないことから、学校現場とも課題を共有し、適切な計画作成に努めていきます。

また、医療的ケア看護師の配置について、国の委託事業を活用し、事務局内に「巡回看護師」を配置しました。学校看護師に向けた研修会を企画・実施し、看護師間のネットワークを構築するとともに、学校看護師不在時に代替勤務することで、保護者の負担軽減を図り、医療的ケアが必要な児童生徒等への支援の充実に努めました。

特別支援教育支援員の配置については、勤務時間及び任用期間を拡充し、支援の充実と待遇改善を図り、ゆとりをもった学校生活と支援員の安定した雇用の確保に努めました。

さらに、「特別支援教育フォーラム」を実施し、特別支援教育の理解促進を図るとともに、関係機関連携の重要性を共有したところです。

これらの取組の効果を有機的に繋げ、子どもを中心とした家庭、医療、福祉などとの連携を一層深め、就学前から学齢期、社会参加まで切れ目ない支援体制の整備を推進します。

⑧ 教育関係職員の研修プログラムの充実

教職員の資質能力のより一層の向上を図るため、キャリアステージに応じた研修や教職員の専門性向上に関わる研修を 73 講座実施しました。指導主事による丁寧なマンツーマン指導で受講者の課題に向き合い、一人一人の授業力を高めるとともに、喫緊の教育課題に対応した研修講座を実施し、教職員の資質向上に寄与しました。

教員免許更新制の発展的解消への対応については、「新潟市の新しい教職員の学び」を具体化するため、ワーキンググループや研修推進委員会で議論を重ね、令和 5 年度からの研修体系の拡充に取り組みました。

一方で、新型コロナウイルス感染症の影響で、マイスター教員の活用が制限され、教職員の教師力向上への貢献が限定的なものとなりました。

今後は、新しい研修体系を定着させ、教職員一人一人が自らの研修受講履歴記録を基に、学校管理職との対話を繰り返しながら、主体的に学びのマネジメントができるよう、教職員研修の高度化を図っていきます。

⑨ 多忙化解消対策の推進と教職員のヘルスケア

第 3 次多忙化解消行動計画の下、前年度に引き続き、デジタル化・オンライン化の推進と教頭の多忙化解消に重点を置いて取組を進めました。その結果、月当たり平均時間外在校等時間 45 時間を超える教職員の割合が 26.5%で、前年度から 9.1 ポイント減少し、また、年間 14 日以上の子次有給休暇を取得する教職員の割合が 68.5%で、前年度から 5.5 ポイント上昇し、いずれの指標目標についても、改善することができました。

一方で、多忙化解消に向けた取組に関する調査並びに多忙化解消検討委員会における検討の結果、タイムマネジメントに係る意識の向上や、教職員の負担軽減のための取組を時間外在校等時間の削減に確実に結び付けていくことが課題であると確認しました。

今後も、重点的な取組のほか、時間外在校等時間の削減目標を掲げ、各学校園における多忙化解消の取組を進めていきます。

教職員のヘルスケアについては、教職員の健康状態を改善するため、管理職等に向けたメンタルヘルス研修の開催のほか、医師による長時間労働者への面接指導や、保健師による高ストレス者への相談支援に取り組みました。精神疾患による病休者数は、前年度から 1 名減少し、56 名となりましたが、更なる減少に向け、引き続き、メンタルヘルス不調の未然防止や早期発見に向けた取組を実施していきます。

⑩ 主体的な学習を支えるシステムづくり

生涯学習ボランティアバンクを活用するとともに、生涯学習ボランティア育成講座も実施し、地域や学校と連携しながら、ボランティアの活動の場を創出しました。

生涯学習ボランティアバンクの登録者数は微増だったものの、クロスパルにいがたを拠点に活動するボランティア組織の再構築や、メンバー募集説明会を開催したことで、潜在的なボランティア希望者の掘り起こしに繋げることができました。

今後も、各ボランティアの持続可能な活動を支援するため、さらなる人材育成と活躍の場の創出を行っていきます。

にいがた市民大学では、新たに夏休み親子特別講座や講座の見逃し配信を実施し、受講者層の拡大へ繋げることができました。今後もニーズに応じた講座内容やオンライン受講等の提供方法を検討し、市民のライフスタイルに応じた学習機会の提供につなげていきます。

さらに、家庭教育支援においては、家庭の教育力向上を図るための支援プログラムを作成し、かつプログラムの進行役となるファシリテーターの育成講座を実施しました。それらを活用した学習会を小学校で実施したことで、保護者同士の話し合いや気づきを促し、共感や学びの場を提供することができました。

今後も、多様な学習機会の提供や人材育成に取り組むとともに、地域や学校などと連携し、学習成果を生かす活動を支援します。

⑪ 家庭教育の充実と子育て支援

子育て各期に応じた家庭教育学級を実施したほか、乳幼児期の親子の交流や仲間づくりの場である子育てサロンを開設し、親としての「考える力や適応する力」の向上や「子育てへの不安感・負担感」の軽減を図りました。

また、前年度に引き続きオンラインのプログラムを含んだ講座も実施し、自宅にいながらの学習・交流を可能にすることで、多様な学習機会の充実にも取り組みました。

未来の地域の担い手である子どもたちの人格形成においては、親の子育てへの関心や家庭環境などが大きく影響することから、いかに子育て期の親への「家庭教育力向上」を図る講座等への参加を促すことができるかが課題です。公民館事業に加え、保健的な視点から様々な子育て支援に取り組んでいることも未来部と連携しながら、双方の取組を一元的に市民へ提供できる機会の創出を図ります。

⑫ 豊かな「子どもの読書環境」づくり

第三次新潟市子ども読書活動推進計画（令和2～6年度）に基づき、図書館をはじめ、家庭、園、学校、地域において、子どもの読書環境の整備を進めました。内容としては、ブックスタート事業や家族で一緒に読書を楽しむ「うちどく」、子育て世代の図書館利用を促す「赤ちゃんタイム」「絵本なんでも相談タイム」の実施など、読書活動の充実や図書館を利用しやすい環境づくりに取り組みました。

また、非来館型サービスへのニーズ等に対応するとともに、児童生徒の読書や学習支援を図るため、電子図書館サービスを実施し、各学校を通して保護者へ利用の周知を行いました。

学校図書館支援センター事業では、相談対応や団体貸出、学校司書及び図書館主任向けの研修などを行い、授業や読書活動を支援しました。

さらに子どもの読書環境の充実を図るため、保護者等への効果的な広報が課題であり、関係機関等と連携しながら、事業を進めていきます。

⑬ 地域とともにある学校づくりの推進

「コミュニティ・スクール推進事業」については、「地域とともにある学校」づくりを進めるため、令和4年度はすべての小中学校、中等教育学校、特別支援学校に学校運営協議会を設置し、保護者、地域、学校が一体となって子どもの成長を支える体制を構築しました。

協議会では、保護者、地域の思いが反映された基本方針を練り上げるとともに、これからの学習支援や子どもの地域貢献などについて、肯定的で未来志向の話し合いが行われたことで、地域の未来を託せる子どもを育てる機運がより一層高まりました。

一方、学校運営協議会の役割を明確にするほか、熟議により最善策を合意形成できる実効性のある体制を構築する必要があるため、コミュニティ・スクール講座などにより、内実を高める取組を進めていきます。

「地域と学校パートナーシップ事業」については、コロナ禍においても、地域と学校双方が「子どもたちのために可能なことから取り組んでいこう」という姿勢が反映され、前年度から延べ事業数は4%の増加となりました。また、学校支援ボランティアの延べ人数は7%増加し、過去最高となりました。

「子どもふれあいスクール事業」については、年3回の研修会で感染症対策に係る観点を説明したほか、各校で行われる運営委員会に指導主事が参加し、教職員・運営主任・スタッフとの話し合いを重ねてきたことにより、57校（設置校の84%）において、事業を実施することができました。

II 新潟市教育ビジョンの施策評価について

新潟市教育ビジョンの令和4年度の実施状況について、有識者の知見を活用した評価を以下に示します。

1 令和4年度進捗状況最終評価施策一覧

● 施策を構成する事業の進捗状況平均分布（全施策）

評価4 … 指標を達成した	29.0%	}80.6%
評価3 … 指標を概ね達成した	51.6%	
評価2 … 指標を下回った	16.1%	
評価1 … 指標を大きく下回った	3.2%	

● 施策を構成する事業の進捗状況平均分布（視点1～5）

評価4 … 指標を達成した	12.5%	}75.0%
評価3 … 指標を概ね達成した	62.5%	
評価2 … 指標を下回った	25.0%	
評価1 … 指標を大きく下回った	0.0%	

※各平均分布の合計値が、計算時の四捨五入の関係上、必ずしも100%にならない場合があります。

<重点施策>

【視点1】 これからの社会で自信をもって自己実現していける子どもを育てます。
 【視点2】 学びの循環による人づくり、地域づくりを進めます。
 【視点3】 地域と一体となった学校づくりを進めます。

【視点4】 誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。
 【視点5】 市民に信頼される、魅力ある教育関係職員の育成に努めます。

基本施策（12施策）	施策（34施策）			施策を構成する事業の進捗状況平均
	網掛…【視点1】～【視点5】に該当する施策			
1 確かな学力の向上	1-1	資質・能力を育む授業づくりの推進	【視点1】	2.4
	1-2	学び続ける資質・能力を育むキャリア教育の推進	【視点1】	3.3
	1-3	実感を伴って学ぶアグリ・スタディ・プログラムの推進		4.0
	1-4	読書活動の推進と新聞活用の充実		3.5
2 豊かな心と健やかな身体の育成	2-1	いのちの教育・心の教育の推進	【視点4】	3.8
	2-2	自立を促す生徒指導の推進	【視点4】	3.3
	2-3	体験活動の充実		4.0
	2-4	体力づくりの推進		3.5
	2-5	健康づくり・食育の推進	【視点4】	2.3
	2-6	青少年の健全育成の推進		2.5
3 創造性に富み、世界と共に生きる力の育成	3-1	地域学習の充実		4.0
	3-2	外国語教育・国際理解教育の充実	【視点1】	3.8
	3-3	情報教育の充実とICTを活用した教育の推進	【視点1】	4.0
	3-4	社会の変化や新たな課題に対応できる教育の推進		4.0
	3-5	帰国・外国人園児児童生徒への教育の推進		3.0
4 共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育システムの推進	4-1	子ども一人一人のニーズと課題に対応した特別支援教育の推進	【視点4】	3.7
5 校種間・学校間連携を生かした特色ある学校園づくり	5-1	就学前から義務教育修了までの一貫した教育の推進		3.3
6 人権を守り共に支え合う社会の推進	6-1	人権教育・同和教育の推進、男女平等教育の推進		3.7
7 家庭教育の充実と子育て支援	7-1	家庭教育・子育て支援の充実	【視点2】	3.5
	7-2	乳幼児期からの読書活動推進	【視点2】	4.0
8 人生100年時代を見据えた循環型生涯学習の推進	8-1	学び育つ各世代への支援	【視点2】	3.0
	8-2	学習成果を生かす活動への支援	【視点2】	3.3
9 地域と学校・社会教育施設が協働する教育の推進	9-1	地域と共にある学校づくりの推進	【視点3】	3.5
	9-2	広報広聴活動の推進		4.0
	9-3	地域人材や高等教育機関、企業等との連携の推進		1.8
10 学びのセーフティネットの構築に向けた取組の推進	10-1	保護者や地域と連携した安心安全な学校づくりの推進	【視点4】	2.5
	10-2	教育の機会均等を図るための取組の推進	【視点4】	
11 学校教育・生涯学習環境の基盤づくり	11-1	学校施設の整備		4.0
	11-2	市民の多様な学習に応じた学習環境の整備	【視点4】	2.0
	11-3	学校適正配置に向けた取組		
	11-4	市立幼稚園の再編に向けた取組		
12 市民に信頼される教育関係職員の育成	12-1	教育関係職員の研修プログラムの充実	【視点5】	3.8
	12-2	教職員への支援体制の充実		4.0
	12-3	信頼される教職員の採用・登用・配置		3.5

2 主な施策・事業の評価状況

重点施策「視点1～視点5」に該当する施策を取り上げています。

<○:成果と課題／●:今後の方向性>

1 確かな学力の向上

1-1	資質・能力を育む授業づくりの推進	事業の進捗平均
	【視点1】 これからの社会で自信をもって自己実現していける子どもを育てます。	2.4

事業1 「主体的・対話的で深い学び」を視点とした教育活動の推進

指標1	研修会参加者の理解度 (%)						R4進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		80	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90	
進捗状況	-	77.6	92.4	92.2			
指標2	アンケートで「今後に生かすことができる」と回答した参加者の割合 (%)						R4進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		80	前年度以上	前年度以上	前年度以上	90	
進捗状況	-	88.9	86.7	84.5			

○各校への伝達内容に関しては、これまでに蓄積してきた多岐にわたる指導内容を整理し、基本的な考え方や及び理念に焦点化し、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを周知することができた。一方、年度当初から各校で活かせるよう、伝達や説明する時期を前年度に行う必要があった。

●授業改革を児童生徒、教職員の実態に応じて進めていくことを今後も推奨し、各校の課題に応じた指導助言を行う。また、授業改革のよりどころになるように、「授業づくりガイド(仮称)」を提示し、研修会や学校訪問等での活用の推進を図る。

事業2 アフタースクール学習支援事業

指標1	生徒アンケートで「参加してよかった」と回答した生徒の割合 (%)						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		88	91	94	97	100	
進捗状況	86.8	88.2	88.7	85.7			

○延べ12,790人の生徒の参加があり、支援員の個に応じた指導により、生徒の学力や学習意欲の向上につながっている。一方、学習支援員の研修の場の確保や高齢化、それに伴う人員不足などが課題である。

●研修会の充実を図り、学習支援員の資質能力の向上につなげる。人員の確保については、教員退職者を中心に募集周知を図る。

事業3 学習支援ボランティア派遣事業

指標1	学習支援ボランティアが派遣された学校で「児童生徒の基礎・基本の定着に効果的」と肯定的に回答した学校の割合 (%)						R4進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		80	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90	
進捗状況	-	99	98.8	98.9			
指標2	学習支援ボランティア派遣人数						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		180	180	180	190	190	
進捗状況	175	114	166	169			

○ボランティアを派遣する大学の担当者との情報交換し、学生への説明を丁寧にしたことで、学校におけるアンケート評価は肯定的であった。児童生徒の基礎・基本の定着のために、より一層、個に応じた指導が行われるよう、大学との連携を図りながら、当該校の要望に応じた学習支援ボランティアへの指導・支援を丁寧に行う必要がある。

●学校からの学習支援ボランティアの要請に答えるため、関係大学との連絡を密にとり、派遣要件(参加学生の資格)・条件(時期・回数)等を調整し、可能な範囲で最大限、派遣ができるように整備する。

事業4 理科支援員派遣事業

指標1	配置校の理科授業における「授業への効果」に肯定的に回答した学校の割合(%)						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		100	100	100	100	100	
進捗状況	99	100	96.8	98.1			

○学校からの要望は高く、必要な事業だと認識されている。授業で求められる知識・専門性がより高度となり、個別の対応も不可欠であることから、多くの支援員を確保する必要がある。

●理科指導や教員の経験がある退職者等、理科(科学)的な知識を有する人材を確保し、学校の実態や要望に応じた配置ができるようにする。

事業5 家庭学習習慣の定着

指標1	新潟市生活・学習意識調査で、市の目安とする家庭学習時間(40分)を達成した児童(小4)の割合(%)						R4進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90	
進捗状況	87	81.6	79.0	70.9			
指標2	新潟市生活・学習意識調査で、市の目安とする家庭学習時間(60分)を達成した児童(小6)の割合(%)						R4進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	80	
進捗状況	76	60.6	57.9	54.2			
指標3	新潟市生活・学習意識調査で、市の目安とする家庭学習時間(120分)を達成した生徒(中3)の割合(%)						R4進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	50	
進捗状況	30	34.5	32.8	29.2			

○「宿題をきちんとやっている」「宿題以外にも自主的に家で勉強している」については、例年と同程度の数値であり、家庭での学習習慣は定着している。一方、宿題以外に自らが設定し課題に取り組む児童生徒が減り、それに伴って一日に家庭で取り組む時間も年々減少している。令和4年度にICT端末を通じて児童生徒に向けて家庭での学習の実態アンケートの結果を伝えたが、教職員への周知が未徹底であった。家庭での学習を自分の課題を追究する場となるような支援が課題である。

●引き続き、学習内容をデジタル版リーフレットで周知するとともに、小中連携事業の一環としての教職員への意識付けを図る。また、家庭での学習だけでなく、通塾などのデータも合わせることで、児童生徒の家庭での学習について、効果的な取組方法や時間の活かし方について検討する。

事業6 学力実態調査の分析

指標1	全国学力・学習状況調査（小6国語）で、全国の平均正答率に対する新潟市の平均正答率の差（ポイント）						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	1
指標目標		+5.2	+5.4	+5.6	+5.8	+6.0	
進捗状況	+5.0	—	+1.7	+2.2			
指標2	全国学力・学習状況調査（小6算数）で、全国の平均正答率に対する新潟市の平均正答率の差（ポイント）						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	1
指標目標		+1.0	+1.4	+1.8	+2.4	+3.0	
進捗状況	+0.6	—	+0.7	-0.2			
指標3	全国学力・学習状況調査（中3国語）で、全国の平均正答率に対する新潟市の平均正答率の差（ポイント）						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	1
指標目標		+2.0	+2.5	+3.0	+3.5	+4.0	
進捗状況	+1.6	—	+1.9	-1.0			
指標4	全国学力・学習状況調査（中3数学）で、全国の平均正答率に対する新潟市の平均正答率の差（ポイント）						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	1
指標目標		+2.0	+2.5	+3.0	+3.5	+4.0	
進捗状況	+1.7	—	+1.9	+0.2			
指標5	全国学力・学習状況調査（中3英語）で、全国の平均正答率に対する新潟市の平均正答率の差（ポイント）						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	
指標目標				+3.0			
進捗状況	+0.3			—			
指標6	全国学力・学習状況調査（中3理科）で、全国の平均正答率に対する新潟市の平均正答率の差（ポイント）						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	1
指標目標			+2.0	+2.0		+3.0	
進捗状況	H30 +1.0		—	+0.1			
指標7	全国学力・学習状況調査児童質問紙の質問項目「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」で、肯定的な回答をした児童（小6）の割合（%）						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		84.0	85.0	86.0	87.5	90.0	
進捗状況	83.8	—	87.3	83.2			
指標8	全国学力・学習状況調査生徒質問紙の質問項目「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」で、肯定的な回答をした生徒（中3）の割合（%）						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		83.0	84.0	85.0	87.0	90.0	
進捗状況	82.8	—	87.0	86.3			

○「〇〇の授業はよくわかりますか」の質問への肯定的評価は、主要4教科はいずれも80%以上となっていることから、児童生徒の学校での授業に対する満足度は高いと捉えている。

しかしながら、全体として、「知識・技能」が正しく身に付いていないことで、「思考・判断・表現」でも誤答となる傾向にある。特に「あなたならどう考えますか」といった自分の意見を記述する問題に対して、その傾向が堅調であった。児童生徒一人一人に寄り添う授業形態が重要であるとともに、各校により実態も異なることから、児童生徒のそれぞれの資質・能力に応じて指導するよう、各教科の授業改革のポイントを具体的に示しながら、学校園へ指導を行う必要がある。

●授業づくりに必要な視点や考え方についてまとめた「授業づくりガイド」を学校園に示し、日常的に資質・能力の育成に向けた授業改革の工夫を行うよう促す。

計画的に学校園の訪問を行い、参観した授業を基に、指導主事が授業改善の視点を示す。さらに、個に応じたよりよい授業の具体像を全教職員が確認できるように、「e-support」で発信する。

1-2	学び続ける資質・能力を育むキャリア教育の推進	事業の進捗平均
	【視点1】 これからの社会で自信をもって自己実現していける子どもを育てます。	3.3

事業1 キャリア教育推進事業

指標1	全国学力・学習状況調査児童質問紙「将来の夢や目標を持っていますか」で肯定的に回答した児童（小6）の割合（%）						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		85	85	86	86	86	
進捗状況	84.9	77.5	80.9	80.3			
指標2	全国学力・学習状況調査生徒質問紙「将来の夢や目標を持っていますか」で肯定的に回答した生徒（中3）の割合（%）						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		72	72	73	73	74	
進捗状況	71.8	67.2	68.9	67.7			
指標3	キャリア・パスポート、キャリア・ノートを活用した取組を実施している学校の割合（%）						R4進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		95	前年度以上	前年度以上	前年度以上	100	
進捗状況	-	98.2	100	100			

○キャリア・ノートやキャリア・パスポートの活用が定着し、児童生徒が将来への夢や目標づくりへのきっかけになっている。また、研修会の実施により、各校が自校のキャリア教育の年間指導計画を見つめ直し、キャリア・ノートやキャリア・パスポートの活用方法についての理解を深めている。一方、キャリア・ノートやキャリア・パスポートの記入率が高いものの記入するだけにとどまり、それまでの取組や記入したことがその後の実践化に至っていないことが課題である。

●デジタル版キャリア・パスポートに係る講演や各校での事例を紹介し合う研修の場を通して、教職員のキャリア教育の重要性への意識付けや実践につながる指導・支援技能の向上を図る。

事業2 市立高等学校・中等教育学校後期課程のキャリア教育推進事業

指標1	高等教育機関・産業界・地域の各機関と連携した教育活動によって、キャリア発達に資する思考力・判断力・表現力が育まれたと回答した生徒の割合（%）						R4進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		60	前年度以上	前年度以上	前年度以上	85	
進捗状況	-	93	90	83			

○生徒の実態に合わせた講演や体験活動を実施することで、生徒の学習意欲や進学率の向上につなげることができた。一方、実態に合わない場合には、生徒が学習に対して消極的になる傾向がみられる。

●生徒の実態に合わせた教育活動を実施するとともに、新潟市高等学校等教育コンソーシアムの活用を促すことを通して、地域と連携した活動を実施するよう、学校を指導する。

2 豊かな心と健やかな身体の育成

2-1	いのちの教育・心の教育の推進	事業の進捗平均
	【視点4】誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。	3.8

事業1 道徳教育の充実、福祉教育の充実

指標	現状	R2	R3	R4	R5	R6	R4進捗評価
指標1	新潟市生活・学習意識調査で、「自分にはよいところがあります」と回答した児童（小6）の割合（%）						R4進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		81	前年度以上	前年度以上	前年度以上	85	
進捗状況	80.1	77.2	78.8	78.2			
指標2	新潟市生活・学習意識調査で、「自分にはよいところがあります」と回答した生徒（中3）の割合（%）						R4進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		75	前年度以上	前年度以上	前年度以上	85	
進捗状況	78	77.3	77.6	79			
指標3	新潟市生活・学習意識調査で、「友達のよいところを見つけたり、友達が落ちこんでいるとき、はげましたりしています」と回答した児童（小6）の割合（%）						R4進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		90	前年度以上	前年度以上	前年度以上	95	
進捗状況	90.3	90.1	91.9	92.1			
指標4	新潟市生活・学習意識調査で、「友達のよいところを見つけたり、友達が落ちこんでいるとき、はげましたりしています」と回答した生徒（中3）の割合（%）						R4進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		91	前年度以上	前年度以上	前年度以上	95	
進捗状況	91.9	92.3	92.8	93.8			
指標5	全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙で、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童（小6）の割合（%）						R4進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		98	前年度以上	前年度以上	前年度以上	100	
進捗状況	98.0	97.3	97.4	97.8			
指標6	全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙で、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した生徒（中3）の割合（%）						R4進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		97	前年度以上	前年度以上	前年度以上	100	
進捗状況	96.1	96.8	96.6	96.9			

○児童生徒の「自分や友達のよさの実感」は例年どおり、高い数値を維持している。

道徳の教科化によって、授業時間の量的確保が図られている一方で、「考え、議論する」道徳授業の質的転換は、まだ十分に図られていない。道徳授業づくりリーフレットの周知・活用や、校内研修への指導助言を通して、「考え、議論する」道徳授業づくりをさらに推進していく必要がある。

●R5年度から活用する「いじめ未然防止教育プログラム（学級活動（2）と道徳科による授業を核とする）」を通して、児童生徒のいじめに関わる知識理解を高め、いじめは絶対に許さないという心情と実践・行動につながる態度を育成していく。さらに、日々の道徳教育や道徳科授業の一層の充実を図りながら、いじめ未然防止や学級の支持的風土の醸成に取り組んでいく。

2-2	自立を促す生徒指導の推進	事業の進捗平均
【視点4】	誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。	3.3

事業1 自律性と社会性を育む生徒指導の推進事業

指標1	新潟市生活・学習意識調査の質問「地域の大人とあいさつしたり、言葉をかわしたりしています」の肯定的な回答の割合(%)						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		86	86	87	87	88	
進捗状況	85.2	86.0	84.7	85.6			
指標2	新潟市生活・学習意識調査の質問「学校生活は楽しい」の肯定的な回答の割合(%)						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		92	92	93	93	94	
進捗状況	91.3	91.6	90.3	91.1			
指標3	新潟市生活・学習意識調査の質問「友達のよいところを見つけたり、友達が落ち込んでいるとき、はげましたりしています」の肯定的な回答の割合(%)						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		90	90	91	91	92	
進捗状況	89.1	89.8	90.7	92			
指標4	新潟市生活・学習意識調査の質問「学校生活で、友達と力を合わせて学習したり、活動したりしています」の肯定的な回答の割合(%)						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		92	92	93	93	94	
進捗状況	91.9	92.6	93.2	94.5			
指標5	新潟市生活・学習意識調査の質問「地域の大人から話やアドバイスを聞いて、分かったり、できたりすることがよくあります」の肯定的な回答の割合(%)						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		69	69	70	70	71	
進捗状況	68.5	72.1	71.6	77.1			

※対象は、小学校3年生から中学校3年生までの児童生徒。

○「地域の大人とあいさつしたり、言葉をかわしたりしています」と「学校が楽しい」について、指標目標には達していないが、進捗状況の値は、前年度に比べてすべて上回った。新型コロナウイルス感染症の影響が減少したことで、家庭生活が安定したり、児童生徒同士や児童生徒と教師の関わる場面が増えたことで、認められる機会も増加したことが要因であると思われる。

●新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、児童生徒の活躍の場や承認される人との関わりの場を、地域連携を含め計画的に設定し、学校生活におけるコミュニケーションの力を高めることにつなげる。

事業2 いじめ・不登校対応への支援カウンセラー等活用事業

指標1		いじめの解消率 (%)					R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		97	97	97	97	97	
進捗状況	95.6	97.2	99.4	97.5			
指標2		不登校傾向児童生徒の解消率 (%) ←※指標変更 (R3.2承認)					R4進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	
進捗状況	27.9	51.0	35.5	30.8			
指標3		不登校児童生徒のうち学校内外の機関から相談・指導等を受けた割合 (%) ←※指標変更 (R3.2承認)					R4進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	
進捗状況	63.0	57.0	76.2	65.3			
指標4		スクールカウンセラーが配置されたことで効果がみられたと回答した学校の割合 (%)					R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		100	100	100	100	100	
進捗状況	98.0	100	100	100			

※指標3の進捗状況の現状として示した63.0%の値は、適応指導教室や相談室登校、保健室登校の数を含めた「別室登校数」をカウントして数値化していたが、R2年度の調査の際に適応指導教室に通っている生徒の数を正確に把握することができないことがわかり、「別室登校数」を現状値から除いた場合、57.2%になる。

○いじめの解消率は、「いじめ初期対応ガイドブック」の活用が定着してきたことで早期発見ができ、いじめを芽が小さいうちに解決してきたことが解消率につながっている。いじめに対する知識理解や心の教育を進め、いじめの案件自体を少なくすることが課題である。

不登校傾向児童生徒の解消率は低下している。ゲーム依存や不安・悩みの抱え込みの可能性が高く、理由もそれぞれ異なるため、引き続き、一人一人に寄り添った対応を進める必要がある。

●いじめの未然防止に向けた教育プログラムをモデル校で実施し、授業の展開例や授業資料を全市の小中学校に提示し、モデル校以外でも実践を進める。

不登校の対応について、「不登校・不登校傾向児童生徒報告」の項目に、本人確認をした時期等の詳細な情報を追加することで、学校がより正確に児童生徒の状況を把握し、個に応じた適切な検討と対応ができるようにする。

2-5	健康づくり・食育の推進	事業の進捗平均
【視点4】	誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。	2.3

事業1 児童生徒の生活習慣病予防対策事業

指標1	肥満傾向の児童生徒の割合（％） ※減少指標目標						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		7.32	7.32	7.32	7.01	7.01	
進捗状況	7.32	8.08	8.56	9.32			
指標2	痩身傾向の児童生徒の割合（％） ※減少指標目標						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		2.43	2.43	2.43	2.41	2.41	
進捗状況	2.43	2.58	2.40	2.45			

○生活習慣病健診のほか、小児科医による生活習慣病に関するオンライン講演会を開催するなど生活習慣の改善に向けて啓発を行った。生活習慣病への予防意識をさらに高める取組を継続するとともに、新型コロナウイルス感染状況下の長期化による日常生活の変化を踏まえ、児童生徒等の心身への影響を注視する必要がある。

●多くの児童生徒が自己の体の状態を把握できるよう、生活習慣病健診の受診者数の増加に取り組む。また、適切な生活習慣の重要性について、児童生徒だけではなく家庭を含めた指導・啓発の取組を専門医や関係部署と連携し、図っていく。

事業2 児童生徒のむし歯・歯周疾患予防対策事業

指標1	中学1年生一人平均むし歯（う歯）本数 ※減少指標目標						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		0.37	0.36	0.35	0.34	0.33	
進捗状況	0.38	0.32	0.27	0.24			

○新型コロナウイルス感染症を考慮して、一部の学校園で通年での休止を含めフッ化物洗口の実施を控えるケースもあったが、感染予防に留意して適切に洗口を実施した。巡回歯科指導は、ブラッシング等の実技指導の代わりにタブレットを活用するなどの工夫をしながら実施した。

●適切な準備を早期に整えつつ、フッ化物洗口や実技指導による歯科指導を再開していく。

事業3 食育推進事業

指標1	食育指導者の派遣校数						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		8	21	23	25	27	
進捗状況	16	6	12	19			
指標2	児童生徒の朝食欠食率（％） ※減少指標目標						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	1
指標目標		1.90	1.85	1.80	1.75	1.70	
進捗状況	1.93	2.01	2.30	2.74			

○食育ミニフォーラムや家庭で調理するチャレンジ活動の取組により、達成感等からの行動変容と共に食への興味・関心が高まる姿が見られた。また、研修会等を通じ、実践成果を全市で共有した。

前年よりも多くの学校で食育指導者による指導を展開し、朝食の大切さやスポーツ栄養と食事などをテーマにした講義を延べ43回実施し、約4,000人に食育指導を行った。食育の推進には、家庭や地域と連携しながら活動を継続していくことが重要である。

●児童生徒が正しい食事のあり方、食の選択等に関する思考力や判断力等を養い、主体的に健康な食生活の実現を図るなど、自分事として健康で健全な生活に資する生活習慣を身に付けることができるよう、タブレットを活用しながら食育指導を展開していく。

事業4 学校給食の充実

指標1	地場産農林水産物の使用率（%）						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		17.0	17.1	17.2	17.3	17.4	
進捗状況	16.9	14.7	14.9	15.2			

○市内産・県内産の旬の食材を取り入れた「地場産推奨献立」を作成し、地域の食文化の理解につなげた。また、生産組合や調理業者、区役所と連携し、地場農産物を当該区内の学校給食に提供するなど、地場農産物の使用拡大に向けた取組を進め、R3年度より地場産物の使用率が向上した。

一方、地場産物は季節や収穫量により価格が変動しやすいこと、また、生産者の高齢化等により納品等連携の継続が難しくなっていることが課題である。

●地場産物の積極的な利用に向けて、区役所等と連携し、地域の生産者や食材業者など新たな連携先の拡大を進める。

3 創造性に富み、世界と共に生きる力の育成

3-2	外国語教育・国際理解教育の充実	事業の進捗平均
【視点1】	これからの社会で自信をもって自己実現していける子どもを育てます。	3.8

事業1 外国語指導助手（ALT）配置事業

指標1	イングリッシュセミナー参加生徒の振り返りにおける満足度（％）						R4進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		80	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90	
進捗状況	-	-	90	92			
指標2	市雇用ALT受入報告書における学校の満足度（％）						R4進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		70	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	80	
進捗状況	-	75	75	71			

○新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、中学生・高校生対象にALTと直接コミュニケーションする機会を確保した。中学生のスピーチコンテストにALTも参加し、スピーチの振り返りを直接伝えることで、参加生徒の達成感の成就につながった。一方、新規のALTの指導力を高めることが課題である。

●より質の高い授業ができるように、ALTを対象とした定例の研修会で、実際の授業映像を用いた研修や情報交換を継続的に実施する。

事業2 国際交流推進事業

指標1	海外訪問に参加した児童生徒のうち、「訪問の経験を今後に生かすことができる」と回答した割合（％）						R4進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	
指標目標		80	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	100	
進捗状況	-	-	-	-			
指標2	国際子どもフォーラムに参加した児童生徒のうち、「今後も諸外国の人々と積極的にかかわりたい」と回答した割合（％）						R4進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	
指標目標		80	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	100	
進捗状況	-	-	-	-			

○新型コロナウイルス感染症の影響に加え、現下の世界情勢によって、相互の訪問交流が中止となったが、国際課と連携し、韓国や中国とオンラインによる相互交流を行うことができた。今後は、オンラインによる交流が児童生徒の国際理解や親睦に資する活動となるよう工夫が必要である。

●各校へ外国語の授業においてもオンラインの相互交流が効果的であることを示し、活用を促す。

事業3 外国語教育支援事業

指標1		各種研修（外国語教育マネジメント研修等）における参加者の満足度（％）					R4進捗評価
Ⅱ型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		70	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	85	
進捗状況	-	85.0	98.0	98.0			
指標2		児童の外国語の学習が分かるという肯定的評価の割合（％）					R4進捗評価
Ⅱ型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		70	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	80	
進捗状況	-	84.2	84.5	86.3			
指標3		生徒の外国語の学習が分かるという肯定的評価の割合（％）					R4進捗評価
Ⅱ型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		70	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	80	
進捗状況	-	78.6	75.4	76.0			

○各校の定期テストについて情報交換やCAN-DOリスト*の有効活用など、学校現場が必要としている評価に関する内容の研修会を重視して実施した。また、外国語教育マネジメント研修では、小・中連携、高校接続を推進するために、中学校区単位でブレイクアウトセッション（少人数での話し合い・分科会）を実施した結果、参加者から高い満足度を得た。

「児童・生徒の外国語の学習が分かるという肯定的評価の割合」が向上したことは、小学校では言語活動の充実を意識した取組、中学校では学習指導要領に合わせた指導法がそれぞれ定着してきたことが要因と考える。

●授業力に合わせた研修を設定したり、小学校と中学校の各教育研究協議会と連携し、指導の好事例を共有する機会を多く設定したりすることで、児童生徒の外国語の学習に対する肯定的評価の割合を増やす。

*CAN-DOリスト 外国語の授業における学習到達目標。児童生徒がどこまでできるようになったかを指標として一覧にして示したリスト

3-3	情報教育の充実とICTを活用した教育の推進	事業の進捗平均
【視点1】	これからの社会で自信をもって自己実現していける子どもを育てます。	4.0

事業1 - ① 学校教育情報化推進事業

指標1	新潟市学校教育情報化推進委員会（仮称）の活動						R4進捗評価
Ⅲ型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	
指標目標		組織立ち上げ計画作成	計画の周知浸透 環境整備	計画の周知浸透 環境整備	計画の周知浸透 環境整備	計画の周知浸透 環境整備	
進捗状況	-	組織立ち上げ	組織の運営 環境整備	組織の運営 環境整備			

○ID管理や端末管理のほか、年度更新、広報資料作成等といった学校支援をGIGAスクール運営支援センターを中心にワンストップで行っている。情報通信技術支援員と連携しながら、学校間格差の解消を図っている。経年劣化による端末の故障等の増加、テクノロジーの進化に伴う、業務量の増加等への対応が課題である。

●R7年度以降の端末更新に係る国からの補助が未定であり、現状の維持に向けて予算の確保を検討する。国の動向を注視しながら、持続可能にしていく必要がある。

事業1 - ② タブレット等ICT活用に係る教職員研修

指標1	研修会アンケートで「今後、学んだことを使ってみたい」と回答した参加者の割合（％）						R4進捗評価
Ⅱ型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		82	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90	
進捗状況	-	95	95	96			

○パイロット校の成果発表会やICTを活用した各種研修、情報通信技術支援員による研修など、様々な形態の研修を行った。教職員のスキル差や、研修ニーズが多岐にわたることが課題である。

●活用率データやヒヤリングを基に実態把握を行い、情報通信技術支援員の配置人数の重点化を行う。また、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）*等、新規内容の周知を図る。

※文部科学省CBTシステム（MEXCBT） 児童生徒が学習端末を用いてオンラインで問題演習等ができるシステム

事業1 - ③ プログラミング教育に係る教職員研修

指標1	研修会アンケートで「今後、学んだことを使ってみたい」と回答した参加者の割合（％）						R4進捗評価
Ⅱ型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		82	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90	
進捗状況	-	-	90	95			

○プログラミング研修において学習指導要領の位置付けから説明を行ったり、演習の時間を多く確保したことで、参加者の授業への活用に対する意欲を向上することができた。

●出前研修等で学校単位でのサポートを行っていく。また、一律に同じ内容で研修する形態を見直し、個々のレベルやニーズに対応できるような研修形態に変更していく。

事業1 - ④ ICT機器を活用した学習活動の充実

指標1	「新潟市の学校教育」実践状況調査において、「児童生徒が情報活用能力を育むために、ICTを活用した授業を実践していますか」で肯定的な回答をした小中学校の割合(%)						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		96	97	97	98	100	
進捗状況	95.7	98.8	100	100			
指標2	「新潟市の学校教育」実践状況調査において、「児童生徒の情報モラルが向上する授業を実践していますか」で肯定的な回答をした小中学校の割合(%)						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		96	97	97	98	100	
進捗状況	95.7	97.6	98.1	99			
指標3	全国学力・学習状況調査児童質問紙の質問項目「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」で、「週1回以上」と回答をした児童(小6)の割合(%)						R4進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	70	90	
進捗状況	22.9	42.9	46.2	95.8			
指標4	全国学力・学習状況調査児童質問紙の質問項目「1・2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」で、「週1回以上」と回答をした生徒(中3)の割合(%)						R4進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	70	90	
進捗状況	22.3	27.4	28.4	94.9			

○他の政令指定都市の同項目の数値と比較すると、指標3は、20政令市で第1位、指標4は第2位であることから、ICTの日常活用が実現している。一方、一部の学校や教職員において日常活用に至っていない状況もあり、デジタル教科書の活用率も全体に低調である。情報活用能力の必要性について全ての教職員に周知する必要がある。

●教育の情報化ビジョンや学校教育の重点に上げた情報活用能力の考え方を管理職・教職員、保護者、地域住民に周知していく。

ICTの活用が、学力及び身に付ける資質・能力の向上にどのような影響を与えているかを検証するためのデータ収集と検証方法について検討する。

4 共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育システムの推進

4-1	子ども一人一人のニーズと課題に対応した特別支援教育の推進	事業の進捗平均
【視点4】	誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。	3.7

事業2 特別支援教育サポートネットワーク事業

指標1		研修会参加者の理解度 (%)					R4進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		85	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90	
進捗状況	-	95	97.9	98.3			
指標2		アンケートで「今後に生かすことができる」と回答した参加者の割合 (%)					R4進捗評価
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		85	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	90	
進捗状況	-	97	96.8	99.6			

○管理職や研究主任、希望者など様々な対象者に合理的配慮セミナーを3回実施した。有識者による講演がニーズに応じた内容のため、いずれも参加者から好評だった。

●R5年度も学校のニーズに応じた研修を行うとともに、管理職対象の研修と特別支援教育コーディネーター対象の研修の内容を関連付け、校内体制の構築・充実を図る。

事業3 早期からの就学支援推進事業

指標1		特別支援学級在籍児童の入学支援ファイル提出率 (%)					R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		98	100	100	100	100	
進捗状況	97.0	94.8	98.6	97.8			

○春と夏の2回の就学相談会と、随時の相談を合わせて726件の就学相談を受けた。保護者の悩みや願いに寄り添いながら、丁寧に相談を受けた。

関係機関と情報共有しながら相談会や就学準備を進めることができた。

●保護者との相談会において入学支援ファイルの説明を丁寧に行う。また、市立幼稚園長会や保育課、私立園協会等を通じて広く入学支援ファイルの活用について周知する。

7 家庭教育の充実と子育て支援

7-1	家庭教育・子育て支援の充実	事業の進捗平均
【視点2】	学びの循環による人づくり、地域づくりを進めます。	3.5

事業1 家庭教育振興事業

指標1	家庭教育学級でのアンケートで「今後に生かすことができる」と回答した参加者の割合(%)						R4進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	90	
進捗状況	84.4	91.1	91.2	88			
指標2	保護者を対象とした家庭教育にかかわる講座等を実施した小中学校の割合(%)						R4進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		70	前年度以上	前年度以上	前年度以上	100	
進捗状況	93.8	71.2	70.4	75.9			

○市内公民館で家庭教育学級80講座を実施し、前年度より390人増加の延べ2,860人の参加があった。また、小・中学校123校や公民館において、学校やPTAが主催する子育て関連講演会等を実施し、子育て期の保護者の家庭教育力向上に寄与することができた。実施校数を増やすため周知方法の工夫が課題である。

●オンラインも活用しながら、参加者の意見交換・交流を図る内容で講座を実施する。また父親の参加を促進し、その意識啓発を図る。

7-2	乳幼児期からの読書活動推進	事業の進捗平均
【視点2】	学びの循環による人づくり、地域づくりを進めます。	4.0

事業1 ブックスタート事業

指標1	ブックスタートアンケートにおいて家庭で読み聞かせをしていると回答した割合 (%)						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	
指標目標			83		85		
進捗状況	81.4		97.4				

○読み聞かせを、全区で希望者を対象に再開した。歯科健診時にブックスタートを受けられなかった親子に対する図書館での実施を、7館から19館に拡大し、啓発を進めた。

●3歳児健診においてブックスタートアンケートを行い、結果を事業実施に活かす。

事業2 赤ちゃんタイム

指標1	中央図書館及び各区中心図書館において週2回以上実施した館数						R4進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		3館は週2回	4館は週2回	前年度の実績を踏まえて毎年度設定	前年度の実績を踏まえて毎年度設定	全7館で週2回以上実施	
進捗状況	2館は週2回 (5館は週1回)	3館は週2回 (4館は週1回)	5館は週2回 (2館は週1回)	7館は週2回			

○赤ちゃんタイムを実施する図書館数や実施回数を増やすとともに、図書館を利用しやすい環境づくりを図り、家庭での読書環境の充実につなげることができた。保護者への周知と一般利用者への理解を図るための効果的な広報が課題である。

●図書館の公式ツイッターや子育て応援アプリを活用し、子育てに役立つ情報を発信して保護者への周知を図る。

8 人生100年時代を見据えた循環型生涯学習の推進

8-1	学び育つ各世代への支援	事業の進捗平均
【視点2】	学びの循環による人づくり、地域づくりを進めます。	3.0

事業1 にいがた市民大学開設事業

指標1	受講者の満足度（前期・後期講座、特別講座）（％）						R4進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	95	
進捗状況	89	75	78	88			
指標2	受講者主体による自主グループ数						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	1
指標目標		15	16	17	18	19	
進捗状況	14	11	10	8			

○基本講座6講座、特別講座3講座を実施し、483名が受講した。新たに、オンライン講座やその見逃し配信のほか、親子を対象とした講座を実施することで受講者層の拡大につながった。

新型コロナウイルス感染症の影響による活動の停滞により、自主グループのうち2グループが解散した。

- 市民大学と民間などが実施する類似講座との違いを明確にして市民大学で開設すべき講座を検討する。受講者層拡大に向けてオンラインなどを活用し、市民のライフスタイルに応じた学習の場を提供していく。受講後に得た知識や経験が地域活動や教育活動で活かされるよう、関係機関と連携しながら、自主グループ化を支援する。

事業2 現代的課題を学ぶ公民館事業と学習成果を発表する場の提供

指標1	現代的課題を学ぶ講座等に参加した人の満足度（％）						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		95	95	95	95	95	
進捗状況	95	93.5	91.5	94			

○感染拡大防止への配慮から、文化祭や芸能発表会等の規模の大きなイベントは中止したが、市民生活に即した学習機会や、地域課題解消について考える機会、地域の多世代交流の機会の提供に取り組んだことで、地域への愛着向上や地域の活性化に寄与することができた。

- 新型コロナウイルス感染症が5類の対応となることで、停滞気味であった市民の学習活動へのモチベーション向上を図り、その都度の状況を見極めながら、積極的に主催講座等の実施に取り組んでいく。

事業3 子どもの読書環境整備事業

指標1	市立図書館の児童書貸出冊数						R4進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	1,185,000	
進捗状況	1,160,205	957,839	1,071,306	1,066,256			

○読書を楽しみ、記録する喜びを感じるものとして全館で「うちどく読書ノート」を配布したり、「おはなしのじかん」を開催し、親子で絵本の読み聞かせやわらべうたなどの体験活動を組んだりすることで、読書活動を推進した。児童生徒に対しては学生司書の活動などの事業を実施したが、成果にはつながらなかった。今後は、事業の見直しを行い、利用拡大につながるよう努める。

- 他の施設や団体との連携を図り、読書を啓発する様々な事業を計画・実施することで、児童生徒等の読書活動への働きかけを行っていく。また、電子書籍サービスを活用するとともに、児童生徒の電子図書館専用IDの配布など読書環境の整備・充実を図る。

事業4 市民に身近な生活課題解決のための情報提供事業

指標1	情報提供を受けた人と講座に参加した人の満足度 (%)						R4進捗評価
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	90	
進捗状況	82	94	87	90			

○レファレンス研修を実施したことで、満足度調査の結果は令和3年度を上回った。レファレンス事例の蓄積と公開については、図書館のホームページと国立国会図書館レファレンス協同データベースで公開することで、利用者にとって役立つものになった。講座について、参加者の世代に偏りがあるため、今後は、幅広い世代が参加できる工夫をする。

●講座は、幅広い世代に役立つテーマを設定する。レファレンスサービスについては、引き続き研修を実施する。

8-2	学習成果を生かす活動への支援	事業の進捗平均
【視点2】	学びの循環による人づくり、地域づくりを進めます。	3.3

事業1 生涯学習ボランティア育成事業

指標1	生涯学習ボランティアバンク登録者数						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		1,390	1,410	1,430	1,450	1,470	
進捗状況	1,367	1,361	1,216	1,221			
指標2	生涯学習ボランティア活動件数						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		560	570	580	590	600	
進捗状況	550	1,082	977	1,194			

○高齢化や活動のマンネリ化により生涯学習ボランティアバンクの登録者数は目標値を下回った。

一方、「生涯学習ボランティア育成講座」を2講座、「自主企画講座」を5講座を実施するとともに、学校や地域へボランティアを紹介・派遣したことで、ボランティア活動件数は目標値を上回った。

生涯学習センターボランティアの組織再構築や、メンバー募集説明会の開催により、活動を活発化させることができた。

●潜在的なボランティア希望者を実際の活動につなげるため、積極的に情報提供や活動支援を行う。ボランティア自身が教える側となって活動を生み出せる、持続可能な場を創出する。

事業2 地域活動を担う人材の育成

指標1	地域コミュニティ活動の活性化を支援する事業で学んだ成果を今後に生かしたいと回答した割合 (%)						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		82	84	86	88	90	
進捗状況	80	86.1	87.1	89			

○市内公民館で100講座（R3年度は88講座）を実施し、R3年度8,106人から約2倍の延べ16,226人の参加があり、地域の多世代交流を通じた地域への愛着や貢献意識等の向上、シビックプライドの醸成に寄与することができた。

●新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、感染症対策に留意しながら、参加者による交流機会の創出について、積極的に取り組む。

9 地域と学校・社会教育施設が協働する教育の推進

9-1	地域と共にある学校づくりの推進	事業の進捗平均
【視点3】	地域と一体となった学校づくりを進めます。	3.3

事業1 コミュニティ・スクール推進事業

指標1	学校運営協議会の設置中学校区数 ※（ ）内は学校数						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		4(12)	8(22)	56(165)	56(165)	56(165)	
進捗状況	-	4(12)	8(22)	56(165)			
指標2	制度が機能していると回答した協議会の割合（％）						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		80	80	80	85	90	
進捗状況	-	88	89	93			

○165校すべての市立小中学校がコミュニティ・スクールとして学校運営協議会を設置し、学校が抱えている課題を共有することで、解決に向けて協議を進めることができた。一方で、学校や児童生徒の変容が実感できなかつたり、合意形成を図る経験の不足などにより、委員の中には、協議に消極的な場面も見受けられることから、委員の主体者意識の醸成や運営に関するスキルを向上させることで学校運営協議会の内実を高める必要がある。

●好事例の広報、研修会やシステムの活用などにより情報の共有を図る。また、協議会において自由に発言できる風土の醸成や、対話を深める調整機能の役割を担う人材育成等のため、新規にコミュニティ・スクール講座を開催する。

事業2 地域と学校パートナーシップ事業

指標1	1校あたりの学校支援ボランティア延べ人数						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		1,320	2,080	2,110	2,140	2,170	
進捗状況	1,989	1,858	2,015	2,159			
指標2	市立高校生インターンシップ受け入れ企業数						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		11	26	28	30	32	
進捗状況	22	11	13	23			

○学校教育ビジョンを踏まえて、重点化する活動を決定し、学校運営協議会などで目標共有と役割分担が行われたことで、ボランティア延べ人数が増えた。

インターンシップ受け入れ企業数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて指標目標を下回ったが、前年度に比べ数値を伸ばすことができた。今後、インターンシップに賛同する企業数を増やす方を講じていく必要がある。

●研修会、事業通信などを通じて、目標共有と役割分担が効果的に実施されている好事例や、ボランティア募集の仕組みを紹介していく。

高等学校におけるインターンシップについて、新潟市高等学校等教育コンソーシアムの枠組みを活用することで、地域探究学習や課題研究などに必要な支援を行う。

10 学びのセーフティネットの構築に向けた取組の推進

10-1	保護者や地域と連携した安心安全な学校づくりの推進	事業の進捗平均
【視点4】	誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。	2.5

事業1 地域見守り活動支援事業

指標1	子ども見守り隊を組織し、見守り活動を行っている学校の割合 (%)						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		100	100	100	100	100	
進捗状況	100	100	100	100			
指標2	登下校時における防犯対策に関する「地域の連携の場」を開催した学校の割合 (%)						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	1
指標目標		100	100	100	100	100	
進捗状況	100	34	56	62			

○全ての市立小学校で子ども見守り隊が組織され、スクールガードリーダーと協力しながら登下校の見守り活動を行っている。登下校時における防犯対策に関する「地域の連携の場」を開催した学校は、昨年度より10校増加し、106校中66校であった。

- スクールガード・リーダーの配置を各区1名の体制で継続して実施する。
全ての学校に対して「地域の連携の場」の積極的な開催を働きかける。

11 学校教育・生涯学習環境の基盤づくり

11-2	市民の多様な学習に応じた学習環境の整備	事業の進捗平均
【視点4】	誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。	2.0

事業2 図書館サービス事業

指標1	市民一人当たりの図書館資料（雑誌、AVを含む）貸出点数						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	2
指標目標		5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	
進捗状況	5.4	4.5	4.8	4.8			

○非来館型での読書サービスの利活用のため、電子図書館事業を開始した。また、活字による読書が困難な方の読書機会が充実するよう、視覚障がい者団体との情報交換を行った。この他、児童生徒のタブレット端末配布に伴い、デジタルの児童書の読み放題コンテンツとして150点を選定した。電子図書館サービスの促進や音声コンテンツ等の充実が課題である。

- 電子書籍の充実や児童生徒の電子図書館専用IDの配布など利活用の周知に取り組み、幅広い世代へのサービス向上を図る。

<事業の進捗評価基準>	達成率 = 進捗状況値 ÷ 指標目標値 × 100 ※ () 内は、減少指標目標の場合
評価4 … 指標を達成した	〔達成率100%以上 (100%以下)〕
評価3 … 指標を概ね達成した	〔達成率90%以上100%未満 (100%超過110%以下)〕
評価2 … 指標を下回った	〔達成率70%以上90%未満 (110%超過130%以下)〕
評価1 … 指標を大きく下回った	〔達成率70%未満 (130%超過)〕

12 市民に信頼される教育関係職員の育成

12-1	教育関係職員の研修プログラムの充実	事業の進捗平均
【視点5】	市民に信頼される、魅力ある教育関係職員の育成に努めます。	3.8

事業1 教育関係職員の研修プログラムの一層の充実

指標1	各研修講座における参加者の満足度 (%)						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	3
指標目標		90	90	90	90	90	
進捗状況	89	79.4	88.5	86.6			
指標2	各研修講座アンケートで「今後に生かすことができる」と回答した参加者の割合 (%)						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		90	90	90	90	90	
進捗状況	89	90.5	93	93			

○新型コロナウイルス感染症の影響で、マイスター*の活用が制限され、教職員の教師力向上への貢献が限定的なものとなったが、対面型研修、オンラインやオンデマンドによる非対面型研修、対面と非対面とを組み合わせた研修、大規模会場での研修等、研修内容に即した効果的な方法により、質の高い研修講座を実施することができた。

●教員免許更新制の発展的解消に伴い、新しい研修体系を構築、研修講座を増設するとともに、新しい運営手法を確立し軌道に乗せる。また、教職員研修履歴記録システム・教職員研修プラットフォーム構築の準備を進める。

マイスターを活用した研修を一部再開し、教職員の資質向上を図る。

*マイスター 他の模範となる優れた教師力を備えた教員

事業2 「学・社・民の融合」に関する研修の推進

指標1	地域と学校パートナーシップ事業研修会参加者理解度 (%)						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		95	95	95	95	95	
進捗状況	95	96	99	98			
指標2	子どもふれあいスクール研修会参加者理解度 (%)						R4進捗評価
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	4
指標目標		98	98	98	98	98	
進捗状況	98	98.5	-	98.9			

○地域と学校パートナーシップ事業研修会では、学校運営協議会制度と本事業のつながりを確認する視点と、年度末から年度始めにかけての職務上の留意点を具体的に示したことから、参加者の理解度が高まった。

R4年度は、子どもふれあいスクール研修会を再開し、全て対面式で行った。取組の様子を映像や画像で具体的に説明したこともあり、参加者の理解度も高かった。

●事業通信の発行や地域と学校パートナーシップ事業研修会、各校に配布する校内研修用スライドを通して、業務の進め方を具体的に例示し、関係職員の一層の理解推進を図っていく。また、参加者からニーズのある、実技研修やグループワークなどの内容を研修会に取り入れる。

<指標目標の設定型>

I型：第4期実施計画の5か年分を設定

II型：「前年度を上回る」「前年度の実績を踏まえて毎年度設定」等

III型：数値ではなく文字（文章）で設定

<事業の進捗状況に係る変更点・修正点について>

・「指標」の表中にある「現状」とは、第4期実施計画策定段階において、指標目標の設定根拠としての現状値を示しています（第4期実施計画本冊の数値を転記）。

ただし、指標目標が「前年度を上回る」「前年度の実績を踏まえて毎年度設定」等の指標については、R1（令和元年度末時点）の値として変更し、変更した値が分かるように「現状」を「R1」として示しています。

・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、状況に応じた適切な取組がなされるよう、令和2年度以降の指標目標を修正した事業があります。

（※上記内容は、令和2年11月の第46回教育ビジョン推進委員会において承認された内容です。）

3 教育ビジョン推進委員からの主な意見・要望と教育委員会の対応

第51回新潟市教育ビジョン推進委員会において、推進委員からいただいた主な意見・要望と、それに対しての教育委員会の回答は次のとおりです。主に、重点施策である「視点1～視点5」に該当する一部を紹介します。

施策1-1「学習支援ボランティア派遣事業」

○学校の立地場所や交通の便利さ、大学からの距離等によって、学生が希望する学校に差があると聞いています。実際に派遣されている回数は学校間で格差はないのでしょうか。また派遣されない学校がないようにしていることはありますか。

⇒令和4年度の派遣について、市内学校園で希望した124校のうち96校に学習支援ボランティアを派遣しました。派遣できない学校は学生が希望しない学校です。このように学校が希望しても学生が希望せず派遣できない学校がないよう、今年度から派遣募集の時期を春と秋、2期に分けます。1期目は支援の学生さんたちの希望を優先し、学校への配置を決めます。2期目は、派遣されていない学校を示して募集をかけ配置をする、というように進めていく予定です。

○予算に対して決算が残っていますので、通いにくいところ等は交通費として上乗せする等を行うことで、地域によって学習支援ボランティアの派遣に格差がないようお願いいたします。

⇒予算内でそれが実施できるか含め、検討をしていきます。

施策1-1「家庭学習習慣の定着」

○指標3を見ると、中学校3年生の家庭学習の時間の進捗状況が年々減少しています。原因を把握したり、対策等を考えたりしていますでしょうか。

⇒市では家庭学習の目標時間を決めています。家庭で学習する以外に放課後の過ごし方については、個人差があるようです。正確には掴めていません。昨年度からはタブレット端末を使い、家庭学習の大切さを意識できるよう、アンケート結果を児童生徒に伝達しています。今後も、学校からの働きかけと合わせて、タブレット端末を通して教育委員会から児童生徒に直接働きかけたいと考えています。

施策 4-1 「子ども一人ひとりのニーズと課題に対応した特別支援教育の推進」

○指標や、成果と課題を見ると、着実に成果が現れていることが見て取れます。良い取組も行っていると感じています。

⇒特別支援教育課として組織に位置付けられたことで、課のビジョンを明確にし、それに基づいて各事業に取り組んでいます。個別の支援の要請を課内・他課に広く共有・連携したり、支援の実態を直接研修に生かすこともできるようになったりしたことが、成果として表れていると捉えています。

施策 8-1 「学び育つ世代への支援」

○市民大学が実施すべき講座の課題について検討する、とありますが、具体的にはどのようなことを考えているのでしょうか。

⇒市民大学は運営委員会があり、そちらで翌年度の講座を組み立てていただいています。その際に民間や大学など他の機関など様々な所で、様々な講座が組まれているといった現状の中で、新潟市で今何をするのか、どういうことがトピックなのか、といったことから新潟市民大学としてどこに力を入れていくのかを協議していただいています。それを受けて市民大学の運営をどのようにするか、検討したいと考えています。

○今後の方向性のところにもありますが、市民講座で学んだ方たちもその企画委員になってもらうとか市民の企画を持ち込んでもらうとか、それが行いやすいような仕組みづくりに力を注いで頂きたいと思いますがいかがでしょうか。

⇒現在においても、市民から提案していただいた講座を実施しています。提案の中から、採用については運営委員会で選定する、という仕組みです。昨年度は市民の方からいただいた提案をもとに、全部ではありませんが、一部採用いたしました。今後もこの取組を続けていきたいと考えています。

施策 8-2 「学習成果を生かす活動への支援」

○指標 1 と 2 を見ると、生涯学習ボランティアの登録者数と活動件数が昨年度とほぼ変わらない人数、回数ですが、これは毎年同じ人が同じ活動を行っており、新規の人や活動がないというように捉えることができますがいかがでしょうか。

⇒ご指摘のとおりです。指標 1 と 2 は累計値ですので、同じ人が何度も登録していたり活動していたりしています。活用の方が少なく、登録していても声がかからない、といった方もいます。学んだことを活用できる場を新規に作ったり、学びを活かす活動とボランティアを生涯学習センターが結びつけたりなど、取組を進めていきたいと考えています。

施策 9-1 「地域とともにある学校づくりの推進」

○コミュニティ・スクールとして学校運営協議会がすべての学校で設置が済んだということですが、取組や意識に学校間や委員間で差はないでしょうか。調整役が重要だとも聞いています。教育委員会が標榜している「学・社・民の融合」の観点や社会教育の推進の観点からも大切な事業であると思います。取組を強化してはいかがでしょうか。

⇒各校の取組の報告から、学校運営協議会の運営が適切に図られているところの一例として、協議において調整機能が働いているということがあげられます。今年度は「コミュニティ・スクール講座」を開催し、調整機能の役割ができる人材育成等を実施する予定です。

施策 12-2 「教職員への支援体制の充実」

○教職員の多忙化が全国的にも課題になっています。解決するためにはお金をかけて人を増やす、業務を減らす、の2つだと思っていますがはいかがでしょうか。

⇒多忙については「多忙化」なのか「多忙感」なのかによって対応が変わってくると考えています。どちらかというところ「多忙感」を感じている教職員が多いと捉えていますので、それを減らすことが大切だと考えています。学校では新しいことをするときには何かを減らす、活動の目的に立ち返り見直しをする、といった工夫をしているところが現れ始めています。

○教員の採用数の減少について、教育実習の体験や様々な広報で、学校の先生という職業に魅力を感じている学生は多いです。ただ、実際の業務の多さや苦労までは伝わらない、または伝えていないので、見通しが不透明で採用試験を受ける決意に至らない、という学生もいます。働き方の改善についてどのように行っているかを伝えてほしいと思います。⇒広報について検討し、よりよい方策を考えたいと思います。

施策全体「評価の仕方」

○指標を十分達しているものが複数ありますが、レベルを上げるという観点から、指標を変えることは考えていますか。

⇒以前、コロナ禍の影響により一部目標を変更した経緯はありましたが、取組を続け、数年の経過を見て分析していくことが大切だと考えています。

○より高い取組を行った場合、成果と課題の中に文言として記載すると良いと思います。いかがでしょうか。

⇒記載内容について検討し、必要に応じて分かりやすい表現を用いて記載していきたいです。

参考資料 新潟市教育ビジョン推進委員会 令和4年度 進捗状況評価経過

No.	開催会議等	開催年月日	協議内容等
1	第50回推進委員会	令和4年 11月22日(火)	○令和4年度 進捗状況中間報告について
2	第51回推進委員会	令和5年 6月9日(金)	○令和4年度 進捗状況最終評価について

新潟市教育ビジョン推進委員会（第9期）委員名簿

任期：令和4年4月1日～令和6年3月31日

(50音順)

No.	氏名	所属
1	小川 崇	新潟中央短期大学幼児教育科教授
2	鏡 十代栄	公募委員
3	熊谷いみ子	元新潟県立生涯学習推進センター学習相談員
4	佐藤 朗子	新潟青陵大学福祉心理学部教授
5	佐藤 邦栄	新潟市小中学校PTA連合会会長
6	中島 伸子	新潟大学大学院教育学研究科教授